

学校だより 第6号



～子供が育つ 大人が育つ 家庭・地域とともに育つ～

吹田市立豊津中学校 (06)6384-3275
令和5(2023)年 10月2日発行



『相手の気持ち』

校長 中西 多恵子

まだ日差しが強いこの時期に、既にインフルエンザ等による学級閉鎖をすることとなり、心苦しく思っています。コロナとのダブル流行の要素も加わって、子供たち、教職員の健康を心配する日々が続いています。懸念をしながらの教育活動とはなっていますが、2年生と3年生の文化総合発表会が無事に終了しました。次年度は学校全体で行うことを想定し、今年度はできる範囲で他学年の発表を見る取組をすすめました。発表をする側は、昨年度以上に自覚をもって日頃の成果を披露することができていました。また見る側は、将来の自分たちの姿を想像しながら、立派な態度で鑑賞していました。今月半ばには全校が一緒に行う体育大会も予定されており、楽しみにしている生徒も多いことでしょう。

行事をやりとげるには、様々な場面で人とのコミュニケーションが欠かせません。相手の気持ちを理解しながら、自分の考えを伝え、理解してもらうことは、大人でもとても難しいことです。

先日、私はコロナにかかりました。熱が続き次に喉が痛くなり、最後に味がわからなくなりとても不安でした。医者に診てもらうのにも電話をしたり、ウェブ問診があったり、車で待機したりと簡単にはいかず、これまではかかった人のことを大変だなと思っていましたが、その気持ちを本当に理解していたのか、と感じたところです。学校では今、行事が続く、深く人と関わるが必要な場面が多い時期となっています。また2学期は長く、忙しい日々が続きます。どんな時も、相手の立場にたち、相手の気持ちになって考え、穏やかな日常を過ごしてもらいたいと考えています。

体育大会

10月19日(木)に体育大会が行われます。今年度は例年に近いプログラムで行われます。

なお、新型コロナウイルス感染症及びインフルエンザ等の体調不良者増加による学級閉鎖も行われていることから、観覧については、昨年度同様各ご家庭2名以下とし、お子様の出場種目のみの観覧を基本とした入れ替え制とさせていただきますのでご了承ください。



文化総合発表会

去る9月22日(金)、27日(水)に3年生と2年生の文化総合発表会が行われました。3年生はメイシアターで演劇の発表と有志による発表。2年生は体育館や特別教室でパフォーマンスや動画、作品の展示名などの発表を行いました。各学年ともに工夫を凝らした発表が行われました。本番までの準備の中で、様々な苦労もあったと思いますが、この経験を今後の学生生活に活かしてほしいです。



文化総合発表会の様子は本校 HP 上のブログにも掲載しております。上の QR コードからもアクセスできますのでご活用下さい。

10 月行事予定

※SC…スクールカウンセラー相談

日	曜	行事予定	昼食	備考
1	日			
2	月			
3	火			
4	水			SC
5	木	中間テスト		
6	金	↓		
7	土			
8	日	豊一地区市民体育祭		
9	月			
10	火			
11	水	体育大会 全体練習①		SC
12	木			
13	金	体育大会 学年練習		
14	土			
15	日			
16	月			
17	火	体育大会 全体練習②		
18	水	体育大会 招集練習、前日準備		SC
19	木	体育大会		
20	金	体育大会予備日①		
21	土			
22	日			
23	月	体育大会予備日②		
24	火			
25	水	代議員レク(2年)		SC
26	木	キラ人(全学年)		
27	金	生徒会選挙立会演説会		
28	土			
30	月			
31	火	校外学習(1年)		

広島平和大使

今年度、3年生の安藤寧音さんが、吹田市で募集された広島平和大使の一員として、広島を訪れました。

8月6日、広島平和公園にて、「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和記念式」に参列するという貴重な体験をし、報告をしてくださいました。その様子は、市のホームページにも掲載予定ですので、またご覧ください。

式典は大変暑い中行われましたが、内閣総理大臣をはじめ、各国から多数の列席もあり、そこに市から派遣された14名の席も用意され参加しました。式典の撮影は禁止であったとのことですが、広島市長による平和宣言、こども代表による平和への誓い等、実際に参加して実体験することは、本当に貴重な体験となりました。以下に、参加後の報告作文を掲載いたします。

「心の伝承者」

「スピリッツドナー」。この言葉の意味は「魂を受け継ぐ」という意味です。語り部さんの証言を聞いた中で何度も出てきた言葉です。

78年前の夏、広島に人類史上最初の核爆弾が落とされました。たった一つの爆弾で、14万もの多くの尊い命が奪われました。大切な家族や仲間の死と向き合った人、そして後の原爆症により苦しみもがいた人など、たくさんの方が犠牲になりました。8月6日のあの日、広島にいた誰もが悲惨な経験をしました。

現在、被爆者の平均年齢は85歳を超え、戦争の恐ろしさを語り継ぐ方々が減ってきています。しかし、語り継ぐということは、私たちにもできると思います。私は実際に戦争を体験したわけではありません。しかし、スピリッツドナーとして、あの夏にあった出来事を忘れることのないよう、たくさんの人に伝承していくことはできます。

国際社会の平和と調和を考える上で、核兵器の恐ろしさを改めて理解しなければいけません。今、私たちが生きているこの時間、世界では数えきれないほど、たくさんの戦争が起こっています。戦争が身近なところにある今、私たちは平和についてより一層深く考え、戦

争の恐ろしさを伝承しなければなりません。核兵器を盾にして悪用しようとしている国もあります。核兵器を再び使おうとするこの考えを改めなければ、多くの被害が出て、原爆の犠牲になった人々の苦しみや命は報われません。

被爆者や語り部さんたちの「もう二度と戦争は繰り返してはいけない」という声を世界に発信し、平和についてもう一度考えなおしてほしいです。私たちは魂と心の伝承者、「スピリッツドナー」として、これからも日々平和について考え、後世に伝承していきたいと思えます。

